

# 緑の地球

# GREEN

# EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 第5回会員総会開かれる ..... P 2
- 会員からのメッセージ ..... P 3
- 黄土高原ニュースフラッシュ ..... P 5
- 『チコロナイ』GENより独立・再出発 ..... P 7



靈丘自然植物園のある南庄村にて。中央は植物園のスタッフの周さん、両側は彼のおじさんとおばさん。

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1999・7

68

## 特定非営利活動法人の認証をえて 第5回会員総会開かれる

6月26日（土）、大阪市中央区のドーンセンターで、緑の地球ネットワーク第5回会員総会がおこなわれました。特定非営利活動法人となって初めてであり、ナショナルトラスト“チコロナイ”的新しい門出でもありました。

総会に先だち、北海道から来られた貝澤珠美さんから一言いただいたあと、

貝澤耕一さんによる講演『アイヌ民族にとってのチコロナイ私たちの沢』に、参加者全員が聞き入りました。

総会は会員558名のうち出席54、書面参加177（当日着分含む）委任状提出63で定足数を満たして成立しました。

1998年度の事業報告・決算報告、チコロナイの独立についての提案が可決

されたあと、小休止をとり、会員もある邱迅さんの笛の演奏を楽しみました。その後、法人化の経過報告・設立趣旨書・定款が承認され、緑の地球ネットワークの任意団体から特定非営利活動法人への移行が会員総会によって決定されました。さらに、99年度事業計画・予算が可決され、最後に、第5期の新世話人に向川郁郎さんを迎えることを決めて終了しました。

その後、OMMビルの東天紅に場所を移して懇親会がひらかれ、46人が参加して談笑を楽しみました。

## 新しい段階への前進を祝して

祁 学 峰 (大同市青年連合会主席)

尊敬する立花吉茂代表：

緑の地球ネットワークが第5回会員総会を開催されると聞き、私は大同市青年連合会を代表して、そして私個人の名義で、熱烈な祝賀の意を表します。そしてみなさんに、またみなさんを通じてすべての会員のみなさんに、心からご挨拶を申し上げます。

今月の22日、私は高見邦雄さんからのファクスを受け取りましたが、そのなかに緑の地球ネットワークが法人格を取得したとありました。数行の短い報せでしたが、それは私にたくさんのことを思い出させました。立花吉茂、遠田宏、高見邦雄、竹中隆、前川宏、松本、石田、太田、東川……、熟知したたくさんの顔が目の前に浮かびます。広島県平城郷の風砂舞う黄昏、靈丘県下寒北村の孟さんの家のオンドルでの相談、平旺の環境林センターの計画と建設、広島県苑西庄村の井戸の通水式での歓喜……、これまで辿ってきた一幕、一幕がよみがえってきます。7年間の苦労、7年間の汗、そしてついに迎えつつある収穫の季節。これらのこととは、私たちの緑化協力事業が小から大へと発展し、緑の地球ネットワークの会員のみなさんが歴史的な通過点を踏み越え、新しい発展段階へと進みつつあることを表していると思います。

ことしの春、私は靈丘県石登村に行き、緑の地球ネットワークが集めた資

金で井戸を掘っている状況を見てきました。住民200人余りの小さな村ですが、もともともっとたくさんの方が住んでいたのに、水がないために、よそに出て行ってしまったのです。この村の生態環境はとてもよく、山には至るところ樹木がありますが、水がないために、人が住むことができないのです。

私たちが村を訪れると、農民は大歓迎してくれました。深さ180余メートルの井戸を掘るために、彼らは私たちよりはるかに多くの苦労をしてきたのに、心の底から私たちに感動してくれている。そのことに、私はとても恥ずかしい思いをしました。私たちの農民にたいする貢献は小さいのに、こんなに大きなお返しを受けてしまった、彼らは先祖代々、山奥の劣悪な自然条件のもとで苦闘してきたのに、いささかも不満をもたず、意氣消沈もしなければ、恨み言もいわない、彼らこそ真に偉大な人たちなのだ、と。このような人たちこそ、助けをうるべきだと私は思いました。

新しい井戸のそばで、小さな女の子がお母さんにいいました。「お母さん、水がでたのだから、私も毎日、顔を洗っていい？」。このような小さな願いが、いまやっと実現できたのです。その子は天真爛漫に笑い、母親もうれしそうに笑い、そこにいた全員が心の底から笑いました。

こうした経験をつうじて私は思うのです。他の人を助けるということは、他の人に快楽をもたらすとともに、自分自身にも快楽をもたらすのです。助けを必要とする人たちの要求は、実際、それほど高くなく、彼らの生存環境と生活条件を改善するために、みんなが努力をすれば、解決はそうむずかしくはないのです。そのようななかで、私もまた深く認識するようになりました。私たちの協力事業の道のりはまだまだ長いのだから、私たちみんながもっと努力しなければならない、と。

去年の第4回総会のとき、私は病床から祝賀のメッセージを書きました。いまは問題ありません。私の健康面は基本的に回復し、みなさんといっしょに、協力活動に参加できるようになりました。しかし、より重い任務をもつようになつたため、以前のように具体的な活動に参加することはできませんが、私の心はいつまでもみなさんとともにあり、黄土高原の緑化のために、山深いところの農民のために、無邪気で活発な子どもたちのために、これからも努力を積み上げたいと思います。

私たちのこのような道は正しく、私たちのこのようなやり方はいいことでしょう。この協力事業が今日の局面まで発展することができた根本の原因はそこにあると思います。

最後に、第5回会員総会の円満な成功を心からお祝いいたします。

1999年6月24日



# 会員からのメッセージ GREEN ECHO

会員のみなさんから、総会へのメッセージをたくさん寄せいただきました。そのほんの一部をご紹介します。事前にお送りしたものが不充分だったこともあります。特にチコロナイの独立については「経緯がよくわからない」という方も多いです。この記事のなかで、はなはだ簡単ではありますがお答えしていますので、ご一読ください。



梅雨空のなか、総会に参加してくださったみなさん

●GENと関わるようになってから5年になりますが、植物園が建設中、地球環境林センターができたりと、活動の規模が広がっていると思います。

ぜひまた現地に行きたいです。(O)

●靈丘自然植物園の建設は緑化のための基礎事業として非常に重要と考えます。早期の整備をお願いします。(M)

●名前だけの不熱心な会員で申し訳ありません。いつしうけんめい活動していただいている皆様に感謝しつつ、こんな活動に自分もつながらせていただけていることを喜んでいます。(Y)

●異常気象のこのごろ、環境が心配です。一人一人が何かをしなくてはと思っておりますが、なかなか活動ができますみません。(F)

●不況のなか、ごくろうさん、です。ささやかに、地球に緑が健在でありますように、せめて会員であり続けましょう。(S)

○できることを無理のないかたちで続けていただきたいと思います。会員でいてくださることが、どれだけ力になることか。郵便局から送られてくる振

替用紙におなじみのお名前を見つけては、「あ、また今年も！ よく続けてくださるよねえ」と感激しています。

●現状で私のような会員が賛否を述べるようなことが本質的に意味があるとは思えません。組織の限界がそこに見えます。(N)

○たしかに、1人の賛否の力は実感できないかもしれません。でも、仮に多くの人が否決するがあればそれは当然力をもちますし、また、なぜ否決なのかという理由を知って、運営に活かしていきたいと考えます。忌憚ないご意見をおよせください。

●お久しぶりです。大同ではお世話になりました。たくさんのものを感じました。

あまり総会とは関係のないことですが、この機会にちょっと質問。先日、中国に住む、中国人の友人が、GENの活動にとても興味を持ってくれたのですが、中国語でのパンフレットなどはあるのでしょうか。なければそれでよいのですが、率直な質問。

皆さま、あついですがpowerもりもりで頑張ってください。また連絡させていただきます。(T)

○中国語のリーフレットは大同でつくりっていたのですが、もうなくなってしまったかな。日本でもときどき話題にはなるのですが、なかなか実現しません。Tさん、つくってみませんか？

●いつもご苦労様です。昨年度は緑化ツアーで大変お世話になりました。黄土高原へ行き、私の人生観が変わりま



した。私は、また何年か後に、ツアーに参加したいと思っています。これからも応援しています。(O)

●私1人では何もできないけれど、気持ちはいつも「緑の地球ネットワーク」を応援しています。これからも共に学び続けようと思っています。(S)

●私が大同に行ってからもう2年以上たつのですね。あのとき見た風景は、驚くほど鮮明に私の中に残っています！ あれを見て何も感じない人は絶対いません。より多くの人にそのチャンスを提供していただきたいです。(S)

●継続は力なりと申しましょうか、規模の拡大と活動の発展に、敬服しています。お金だけの参加しかできませんが、有効に生かしていただき、感謝しています。(T)

●書面による決議参加はありがたいです（各種団体で初めてです）。年会費12,000円は高いため、退会者が多いと思います。（社）大阪自然環境保全協会は、正会員12,000円、協力会員3,000円と分かれています。会報購読会員程度は安価で、人数を増やすのはどうですか。多くの会に入っているものは、高い会費はきびしい。(W)

○確かに12,000円は安くはありませんが、月1,000円と考えていただければ……。たとえば、会費を半額にしたら、現状と同じ会費収入を確保するために会員数を2倍にする必要があるわけで、これは実現性に欠けています。どうしても無理な場合は、年2,000円の会報購読をご利用ください。

●黄土高原の植林がこれほど注目されている今、恵まれた環境にある日本の木々が手入れも注目もされず山々が荒れています。田舎に住む私たちも中国に負けないほどがんばらなくてはと気持ちが高ぶりります。(H)

●国際協力事業団のコントラクト・アウトの試みに申請するという案はいかがでしょうか。(N)（次頁につづく）

(前頁よりつづく)

○ご提案ありがとうございます。説明会には参加したのですが、規模やプロジェクト内容などの問題で、現時点ではむずかしそうです。

●なぜチコロナイが独立するのか、その趣旨が不明です。おそらく、GENの負担減と活動の拡充をはかるためと思われますが、説明をよろしくお願ひします。(S)

○お送りした書類にはその説明が欠けていました。申し訳ありません。そもそも、“チコロナイ”は運動開始当初から独立・法人化をめざしていましたが、この度のGENのNPO法人化を期に、独立を決めました。北海道でのナショナルトラスト運動を大阪の組織が主宰することは本来の趣旨にそぐわないということや、土地の名義（贈与税）の問題なども関係しています。

●私の乗った宇宙船地球号が太陽の周囲を回ること、満52回目の当日、GENの新たな一步をする総会が開催され

ることを喜ばしく思います。今春、黄土高原で会った農民の顔を忘れないで、地道に環境問題にとりくんでいきたいと思います。(I)

●法人成立の第1回記念総会おめでとうございます。涙をのんで欠席します。

95年に、ちょっとした好奇心で参加し、以来だんだん肩の荷が重くなった感じですが、ライフワークとして21世紀を目指します。上田先生の『森と緑の中国史』力作ですね！(I)

●先日はお電話ありがとうございました。久しぶりに高見さんのシブイお声が聞けて、とても嬉しかったです。育児休職中は出歩くことが自由にはできませんが、時間だけはあるので、様々な環境問題の本に目を通しています。知識もふえて、とても充実した毎日を過ごしています。体に気をつけて、がんばって下さいね。(S)

○これから暑い盛りですが、みなさんもお身体を大切にしてください。

## ボーナスカンパのお願い

世間の不景気はNGOを直撃します。多くのNGOは資金難に苦しんでいますが、GENもご多分にもれません。面倒な書類仕事をなんとかこなして法人化しても、資金面でのメリットはいまのところゼロです。

中小企業の4分の1が夏のボーナスカットというのに少々心苦しいのですが、なかには「思ってたよりあったな」という方もいらっしゃるかもしれません？と恒例のボーナスカンパのお願いです。緑化基金、運営カンパなど、使途についてはご指定のとおりしております。どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、発送作業の都合上、一律に郵便振替の用紙を同封いたしますが、最近ご協力をいただいた方には重ねてのお願いではありませんのでご了承ください。

## 助成が決まりました

### ●郵政省国際ボランティア貯金

中国山西省の黄土高原における緑化協力に9,021,000円の助成が決まりました。

### ●全労済環境問題活動助成

中国大同市における自然植物園建設に1,000,000円の助成が決まりました。

### ●(財)国際緑化推進センター

中国大同市のカウンターパート技術者の訪日研修に1,472,000円の助成が決まりました。この訪日研修は、秋に予定しています。

## 集めています

～ご協力ください～

### ○使用済みテレカ等

テレホンカード、オレンジカード、ハイウェイカードなどの使用済みのものを集めています。折れ、傷のないものをお送りください。換金して苗木代として使わせていただきます。

98年度は、テレカ約110,60枚、その他約5千枚で630,00円になりました。

○書き損じハガキも集めています。



# 黄土高原 ニュースフラッシュ

## 石瓮村で水がでました！



緑の地球ネットワークは、昨年秋から、靈丘県史庄郷石瓮村で井戸掘りに協力していましたが、5月になって、地下183mのところで1時間あたり40tの水脈に到達しました。もともとこの村は188年に掘られた深さ40m弱の井戸に頼って生活していましたが、その水が10年余り前から涸れてしましました。その後、片道4kmの北水泉村までもらい水に通っていましたが、北水泉村の湧き水も激減し、村の存続が危ぶまれていました。（そのようすはNHK・BS2の「地球上に好奇心」シリーズ、「黄土高原～失われた森の文化を求めて」で紹介されました）。

ことし3月のワーキングツアーもこの村を訪れて、水のない生活の厳しさを痛感していましたので、昨年の広靈県苑西庄村につづいて、この村でも水がでたのは、とてもうれしいことです。6月に、全国私塾情報センターのツアーハーがこの村を訪れたとき、通水式をもって、喜びをともにしました。さしあたり4つの村の生活用水を解決することに使われることになっています。

これら2つの井戸掘りにあたっては、郵政省国際ボランティア貯金とJAグループのレインボーホーム環境募金の助成を受けました。

## 菌根菌の効果、はっきりと

菌根菌の育苗への活用は、小川眞さん（関西総合環境センター生物環境研

究所長）の指導で、97年春からはじまっています。当初の成果が大きかったため、98年春から、大同県国営苗圃の一角1.5haを借りて、マツの育苗に実用化しました。この苗圃は長くマツの育苗をつづけていたため、もとから菌根菌が存在していましたが、そこに木炭クズを加えることにより、顕著な効果が表れました。通常の方法で育てたものに比べ、1年間で1.5～2倍に育っています。苗圃の技術者は「20年以上、ここで育苗しているが、これほどいい苗はこれまでつくったことがない。これからは苗圃の全体にこの方法を採用したい」と語っています。

99年春からは、さらに松林の表土や木炭の配合をさまざまに組み合わせて、より効果的な方法を探っています。また97年春に実験を開始したものは、こどしの春、30cm以上もシートを伸ばして、みる人を驚かせています。



写真ではちょっとわかりにくいですが、右側が菌根菌を接種したものです

## 砂を加え、ポリマルチを すると……

粒子の小さい黄土に樹木の苗木を植えるさい、砂、軽石、石炭の燃えかすなどを加えて通気性をよくすることの効果が、地元の人たちにも認識されるようになってきました。それとポリマルチ（ポリエチレンフィルムで苗の周囲を覆って蒸発を抑える）を組み合わせることで、初期の活着率をそうとうに高めることができそうです。



3月のワーキングツアーは靈丘県の自然植物園で、このような方法で花木（楓葉梅）の苗木を200本植えましたが、その後、きびしい旱魃であったにもかかわらず、1本を除いてみな活着するという結果がでました。その1本も地下部はまだ生きているようでしたので、これから新芽がでてくるかもしれません。

この方法は果樹を中心に各所で実施しており、この夏には、その結果をたしかめることができます。

## 100種以上の新しい樹木が 芽生える

靈丘自然植物園のための育苗を植物園内の苗圃と地球環境林センターの2か所で実施中です。靈丘でみつかった自然林から200kg以上の種子を集めめたのをはじめ、北京の種子会社から購入したもの、日本から導入したものなど、合計160種以上の育苗が始まりました。6月中旬までに、うち100種以上が発芽しました。技術者たちは毎朝、苗圃を見回り、新種の発芽を確認する喜びを味わっています。

その一方、人間が食べてもおいしいハシバミが、発芽したとたんにキジやヤマドリの襲撃をうけるなど、新しい問題もでてきています。零下20度以下でしかも乾燥する冬をどうすごすか、といった問題のうえに、ノウサギやキジなどの襲撃もかわさなければなりません。すっぽり網でおおうことを検討中ですが、なにかいい方法はないでしょうか。

（高見）



## 植物を育てる (2)

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)



### ●種子をまく前に

集めた種子が、短命なものはすぐにまかないと死んでしまうので、調整洗浄、乾燥（または湿気を含ませ）して苗床にまく。調整が意外に面倒な仕事であり、きれいな種子だけにするのは案外手間がかかる。

栽培植物の種子は、適当な温度、適当な水分、適当な空気、適当な光、の4条件がそろえば短期間のうちに発芽する。しかし、野生の植物の種子は栽培植物の種子と違って、まいたらすぐに発芽するというわけではない。硬実、休眠、後熟などの性質があって発芽に日数を要し、場合によっては2~3年かかることがある。これは植物の生き残り作戦のためであるが、われわれ人間サイドからは不都合である。水やりや草取りなど長期にわたって管理せねばならないから、早く生えてほしい。そこで、事前に前処理をおこなうのである。前処理には目的の植物の種子がどのタイプに属するかを知らねばならない（図参照）。硬実性種子なら①種子に傷をつけるか、②薬品処理をするか、③熱湯処理をおこなうか、が必要

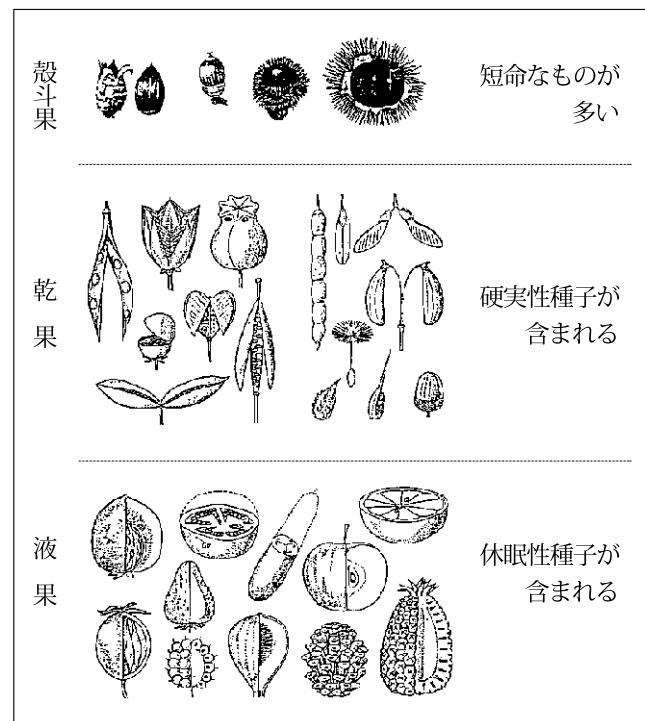
である。もし休眠性の種子なら、休眠打破の処理が必要になる。それには、①低温処理をするか、②ホルモン処理をおこなわねばならない。もしも、後熟性の種子なら何らかの方法で後熟が終わるまで貯蔵せねばならない。

### ●硬実性種子

硬実性種子は図のような乾果のものであり、熟すると水分の少ない莢やカプセルの中から種子が出てくる。なかには藤の種子のように硬い莢が熟すると、突然パチンと音がして遠くへはじき飛ばされるものもある。このようなものは、後熟させているうちに種子がどこかへ消えてしまうことが起こる。水分の多い果肉の中に入っているものは多くは休眠性種子である。

### 熱湯処理法

70°Cほどの熱湯（温湯）に15分~1時間浸し、水浸して1夜置く。翌日吸水して種子がふくらんでいればOK、ふくらんでいなければもう1度やり直し2~3時間浸す。それでもふくらまない場合は、硫酸処理が必要になる。少量の種子なら湯飲み茶碗に種子を入れ、熱湯（100°C）を注ぎ、冷めるまで置く。1夜水浸してふくらむと成功である。



## GREENなんでも勉強会 多様性のある森づくり

GREENなんでも勉強会“多様性のある森づくり”第1回、『森林の構造と植生調査』は、7月1日、阿倍野市民学習センターで21人が参加して開かれました。立花先生のお話はちょっと脱線気味だったけど、学校の授業でも脱線だけが楽しみだった落ちこぼれ受講生には興味深かったです。

第2回以降の日程が決まりましたので、少し先ですがお知らせします。

### 第2回『種子の採取、保存と育苗』

●日時：9月16日（木）18時30分~20時30分

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター（ORC200の7階。ORC200へはJR

環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口から直通通路あり。TEL 06-6577-1430)

●参加費：700円（資料代ふくむ）

### 第3回『黄土高原の植物園のための種子あつめ』

●日時：10月3日（日）

●場所：比良山

※詳細は次号でお知らせいたします。

## モクモクグリーンギフトを よろしく

モクモク手づくりファームのギフトで、GENの活動に協力してみません

か？

モクモクは、農産物・畜産物の生産から加工・販売まで一貫して取り組んでいる農事組合法人です。今夏から、GENの会員に、ギフトお買い求め金額の10%をGENに活動資金として寄付するグリーンギフトを提案しています。

手づくりワインナーセット（3,000円～）、地ビールとハムのセット（5,000円～）をはじめ、お米や伊賀牛のセットなどもあります。ご希望の方はカタログを下記までご請求ください。

### ★お問い合わせ・ご注文は

モクモク手づくりファーム通販課  
GEN グリーンギフト担当 長坂まで  
〒518-1392三重県阿山郡阿山町西湯舟3609 TEL 0595-43-222PAX. 0595-

43-1861

# ナショナルトラスト運動『チコロナイ』 GENより独立して再出発

1993年から始まり、『緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会』として活動してきたナショナルトラスト運動「チコロナイ」が、6月26日の総会で分離、独立して、新しく二風谷現地につくる組織『ナショナルトラスト・チコロナイ』(年会費2,000円)と、大阪を中心の支援組織「チコロナイ友の会」(年会費2,000円)として活動を再出発することになりました。それに伴って、今までの寄付による買い取り地と、残金は6月17日付けでGENから『ナショナルトラスト・チコロナイ』に委譲されました。

新しいリーフレットを同封いたしました。新組織へのご入会とご寄付をよ

ろしくおねがいいたします。

現在は第3期の募金活動中で、昨年12月10日から今年7月1日までに56件(56人) 476,93円の寄付が寄せられています。今後ともよろしくお願ひいたします。

6月26日、総会に先立って、貝澤耕一さんと珠美さんの「アイヌ民族にとってのチコロナイ—私たちの沢」と題する講演がありました。

また、GEN総会で資料としてお配りした、「会報『緑の地球』に見るチコロナイ運動の歴史」(B4、20ページ)があまっています。希望者に実費でお送りします。「チコロナイ友の会」までご連絡下さい。

## チコロナイアイヌ語講座 ~いやでもわかるアイヌ語~

### 第5期第2回

- 日時：7月24日（土）13時～15時
- 場所：GEN事務所（06-6583-1719）
- 資料代：第4期（6回）分で2,000円
- 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
- ★『エクスプレス・アイヌ語』（中川裕、中本ムツ子著白水社）の12をやります。1回だけの参加も大歓迎（400円）。

## 第45回 チコロナイ学習会

- 日時：7月24日（土）13時～17時
- 場所：GEN事務所（06-6583-1719）
- 内容：「ナショナルトラスト・チコロナイ」「チコロナイ友の会」について
- 参加費：100円+カンパ
- 問合せ：チコロナイ友の会（武田）
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

## チコロナイ 現地宿泊研修会 参加者募集中！

### 木彫りと刺しゅう体験教室 開かれる

じっくり体験、アイヌ文化にふれてみよう！と題して、（財）アイヌ文化振興・研究推進機構のアドバイザー派遣、大阪市立弁天町市民学習センターの協賛で、6月27日開催されました。

全部で54人が参加、約半数の人が初めての体験でしたが、アンケートによると、ほとんどの人がアイヌ文化にふれる機会をまた作ってほしいと要望していました。できれば、1年に1回は、大阪で、このような一般向けの体験行事をしたいと思います。

### 第4回 北海道の自然とアイヌ文化にふれる 二風谷子供キャンプ

- 日時：8月11日13時～15日13時（千歳空港集合、解散）
- 場所：北海道沙流郡平取町二風谷
- 内容：2泊は民宿、2泊はキャンプ。山歩き、川遊び、農作業体験、自炊、キャンプファイア。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り体験。博物館見学など。
- 費用：集合から解散までの全費用（「チコロナイ友の会」年会費、保険料を含む）35,000円
- 募集：小学5年生～中学3年生（小学4年以下は保護者同伴、高校生以上はスタッフとして参加可）15人
- 締め切り：定員に達するまで。
- 問合せ・申込み先：武田繁典（別記）

### 第6回 二風谷ワーキングツアー

- 日時：8月18日15時JR富良野駅集合～23日12時二風谷解散
- 場所：北海道富良野市、沙流郡平取町二風谷
- 内容：富良野近辺の原生林、チコロナイの森、博物館の見学。山、畑仕事。アイヌの木彫り、刺しゅう、踊り体験。チブサンケ参加、交流など。1泊はキャンプ。
- 費用：集合から解散までの全費用5万円（「チコロナイ友の会」年会費、保険料を含む。）
- 募集：15人（ただし全行程に参加できる人。2回目以降の参加者は部分参加も可）
- 締め切り：定員に達するまで。
- 問合せ・申込み先：武田繁典（別記）

